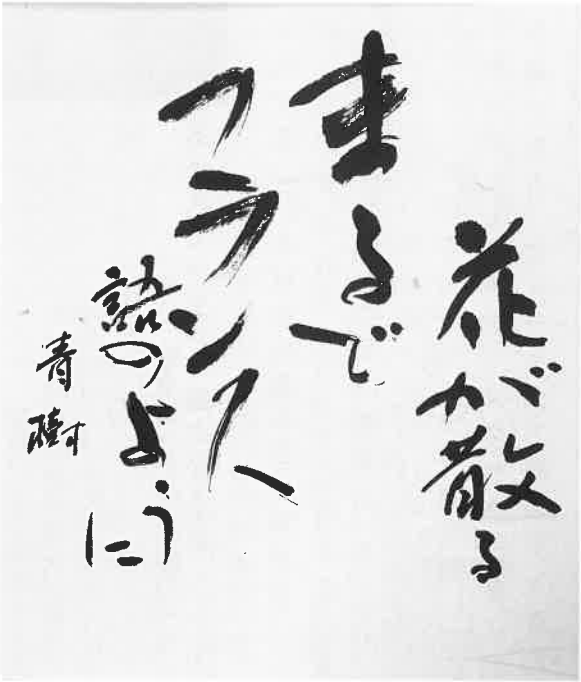
現代俳句

徳島



徳島県現代俳句協会

2023年3月　第10号

表紙の句

花が散るまるでフランス語のように　　**上窪青樹**

俳句で花といえば桜の花のことである。

桜の花が愛されるのは、その散り際の美しさのためで、落花の様を詠った句は数多ある。しかし、それをフランス語のようだと断じた句は初めてであろうと思われる。甘く伸びやかなフランス語を聞いていると、意味など解せずとも、詩的で文学的雰囲気に包まれるから不思議である。花とフランス語の取り合わせの妙が光る、新鮮な一句。

安曇統太

徳島県現代俳句第十号

～心を育む～

徳島県現代俳句協会会長　上窪　青樹

「変異コロナ・オミクロン株」の出現は私たちの生活に大きな影響をもたらしました。我々現代俳句協会の集団行動も自粛を余儀なくされましたが、それでも感染が小康状態にあった間隙を利用して、鳴門吟行を実施し、忘年句会もほぼ従来の形で実施できたのは、会員の俳句を愛する意識の強さゆえだったようです。ただ、心配なのは、この自粛生活が身についてしまい、出不精になってしまった人もいるかも知れません。俳句のみならずいろんな趣味や活動に影響が出てしまうのでないかと杞憂しています。俳句は孤独を託つものではなく、人生を豊かにするための心を育むものという意識を心に留めていれば、来たるべき春には萎縮していた心もほぐれることでしょう。そのためには楽しい企画、楽しい作品の発表をもって現代俳句協会の活動を広めるより手はないでしょう。吟行場所や新しい企画など思いつかれた方はぜひ、編集部の方へご一報いただきますようお願いいたします。

今年はいよいよマスクとの別れが実現しそうです。さわやかな大気を存分に吸える吟行を企画し、例会では久々に会員相互の微笑みを確認しながらの句会を楽しみたいものです。

「禍福は糾える縄の如し」、だとすると、令和五年は福の年になるに違いありません。この言葉を信じて、会員が一丸となって、幸せへの道を突き進みたいものです。

令和四年度　活動記録

総会、吟行句会、忘年句会、例会一回の他、夢道忌俳句大会、徳島県俳句連盟第五十九回大会及び第二十回とくしま文学賞応募など研鑽に努めた。

★　総会と吟行句会

令和四年五月二十九日(日)
於　大鳥居苑　参加者29名(三句出句))
四国霊場一番札所霊山寺周辺を各自で吟行ののち投句、総会、句会、懇親会を実施する。

【総会】
行事及び活動報告、会計及び監査報告が全て承認されたあと役員の改選を行う。
新規役員はつぎのとおり選任されました。

顧　問　船越　淑子
会　長　上窪　青樹
副会長　今岡　直孝
　　二橋　満璃
幹　事　大島　宏昭
　　青木　　慧
　　安曇　統太
監　事　住友セツ子
会　計　山之口ト一
事務局長　上窪　則子
事務局　明　日　侖

○船越淑子氏から会長退任の御挨拶
　参加できなかったため二橋満璃副会長が代読。
心の籠もった退任の御挨拶に添えて徳島県現代俳句協会の益々の発展を祈念してと金一封を頂戴しました。

【当日の一句】（○は選者）

三百の仏燈暗しなめくじら　○上窪青樹
そら豆の黒くちびるの長きかな　○今岡直孝
影ひとつ山門くぐる夏つばめ　○青木　慧
ミサイルにせめて草矢を放たむか　○大島宏昭
杖と笠置きて掬ふや岩清水　明日侖
読経を清澄に研ぐ若葉風　安曇統太
首すじに滴る汗や遍路笠　飯田ひとみ
仏像に微かな老化花は葉に　伊賀信子
子めだかの背の白線乱反射　井形順子
賽銭は一円の音青もみじ　梅岡美沙子
夏遍路意外に多し若夫婦　鎌田陽子
万燈の奥に万燈五月憂し　上窪則子
万灯の一つに卍桐の花　K・ベック
鳥ききと川さらさらと苔清水　湘南紗季

衆目のコウノトリ追ふ植田風　住友セツ子
小流れを渡らむ蜘蛛の糸一本　田村素秀
ベートーベンの返す右手よ薄暑光　奈賀和子
藕の花ぽつりぽつりと降る山門　仲　空
花あふち会話のはずむ風の沙汰　長町淳子
尺八音本堂に消える寺の夏　奈須野惠香
コウノトリ季語がいるかと蓮青葉　羽山章鵬
目高にも人は優劣つけかたがる　二橋満璃
枇杷の実の札所山門照らしおり　益田梅子
抱きし子も白衣を着せて夏遍路　向井みちこ
睨み合ふ銃口のやう夏の鯉　山田絵里
参道の横は日常茄子の花　やまだ胡瓜
黒幕は山椒魚といふ噂　山之口ト一
著莪咲くや流谷という村の道　吉岡えい子
大樟に鳥語はじける聖五月　若葉　淳

★　例会

令和四年七月三十一日(日)
於　県立文学書道館　　出席者15名（三句出句）

【当日の一句】（○は選者）

列車から黒きブーツの浴衣の娘　○上窪青樹
流燈やあんぱん袋ふはり飛ぶ　○今岡直孝
夏盛ん土器に火の色炎の形　○二橋満璃
泳ぎ習ふ親より怖いガキ大将　○大島宏昭
青春も余生も刹那遠花火　○青木　慧
カナブンに緑のセビロパリに死す　○安曇統太
片影と杖を頼りにお四国さん　明日侖
長茄子や味も形も素直なり　梅岡美沙子
遠花火パレットになき過去の彩　上窪則子
「市有地」と空地に看板熟れトマト　K・ベック
夕立や厄介な世に居合はせる　住友セツ子
行く道のだんだん白し日の盛　髙木閑人
涼しきは呵々大笑の無一物　益田梅子
時報さへ歪んで聴く原爆忌　山之口ト一
監督の運ばれてくる残暑かな　吉岡えい子

★　秋の鳴門吟行

令和四年十月三十日(日)午前十時～午後三時
於・鳴門市土佐泊浦　　ホテル鳴門海月
参加者二十二名(三句出句)

眼下に渦巻く海流と鼎を跨ぐ鳴門海峡大橋、風車が林立するする対岸の淡路島。千畳敷と呼ばれる岬の景勝地、瀬戸内を航行する貨物船や観潮船等々、句を拾うには絶好の地。どんな句を詠むことが出来るか、一時間での苦行は句会のあとの美酒とご馳走が心身共

44
井口学

に癒してくれたことでしょう。

【合計での高得点者】

十点　原田厚子・向井みちこ
八点　青木慧・上窪青樹・仲空
七点　明日侖

【一句の高点者】

＊五点句

海鳴りの太古の調べ新松子　青木　慧
水底にあかめの芽あり豊の秋　仲　空
岬道や海よりあをき海桐の実　原田厚子

＊四点句

逢ひたさに大渦渡る秋の蝶　明　日　侖
光跡も航跡も秋綾なせり　上窪則子
流れ着く白き小瓶に秋の風　向井みちこ

【当日の一句】（○は選者）

青空を咀嚼しており秋の渦　○上窪青樹
すすき野に斜辺50°飛行機雲　○今岡直孝
金秋のホモサピエンス海を恋ふ　○二橋満璃
海鳴りの太古の調べ新松子　○青木　慧
爽籟や地球を回す大風車　○安曇統太
群るる深く鎮むる秋の潮　明日侖
潮流に逆らい秋の波寄する　井形順子
秋の海光の分ける青の濃さ　鎌田陽子
光跡も航跡も秋綾なせり　上窪則子
周波数拾う海峡新松子　K・ベック
旅人や秋の海峡我も又　湘南紗季
秋潮を聞き流木鳳となる　田村素秀
水底にわかめの芽あり豊の秋　仲　空
秋麗階段２００鳴門山　奈須野惠香
紅葉忌渦も見ずして将駆けぬ　羽山章鵬
岬道や海よりあをき海桐の実　原田厚子
神の留守海は平らに輝けり　益田梅子
日の落つる方へ流れて浮寝鳥　松原雅子
どんぐり踏み少年の渦を見る　向井みちこ
秋天や大魚が眠る渦の底　山之口卜一
出でて又別の舟出る櫨紅葉　吉岡えい子
茨の実我を離さず岬の道　若葉　淳

【高点者のコメント】

＊海桐の実　**原田厚子**

晩秋の一と日、快晴にてまさに吟行日和。今日の吟行地は鳴門、久々の鳴門の海を想像するだけで心が躍る。

九時四十分「鳴門海月」到着。先ず千畳敷に行って深呼吸、美味しい海の空気を思う存分吸って頑張ろう

と心に。坂がかる岬への道を歩けど誰もいない。しばらく歩くが怖くなり引き返し句会場に入る。本日は十一時三句投句締切、事務局長上窪則子氏による進行で上窪青樹会長他四名の先生方の十句選と選評につづき事務局明日侖氏による朗朗たる披講にて句会は終了し懇親会に入った。鯛づくしの料理に舌鼓を打ち、結社を超えて和やかに会話も弾んだ。

アッと言う間に楽しい時間は過ぎ海峡を潮の落ちゆく光景を眦に鳴門を後にした。

最後の私事で恐縮ですが私と向井みちこ氏が同点高得点となり私は今岡先生の色紙と「海桐の実」の句が上窪会長の目にとまり特別のに墨痕淋漓たる短冊を賜り大変嬉しく幸せな一日となりました。

＊羅針盤　　**向井みちこ**

鳴門で生まれ育った私は、鳴門での吟行に少しワクワクしていた。海月の窓から見える淡路島の近さに思わず声を上げてしまった。止まっているように見える観潮船。渦の海峡は静止画を見ているような感覚に陥る。半世紀以上前、貨物船東栄丸の進水式に学校を早退し、振袖を着せられはにかむ私がいた。金の斧を振り下ろすと、船は神戸の海へするすると滑り込んだ。北九州で石炭を積み鳴門や天保山の貯炭場へと鳴門海峡を何十回と航行していた。海峡を目の前にして海底に沈んだままの遠い記憶が甦ってきた。今私の家の玄関に羅針盤がある。鳴門の父は徳島の私の家に時々顔を出し、多忙な私を見ては黙って俳句誌を置いていった。残された父の羅針盤に導かれるように俳句に出会い、風嶺に入会させて頂いて十一年。今年より現代俳句協会に参加させて頂いています。

秋潮や夢の終りに羅針盤　　みちこ

★忘年句会・懇親会

令和四年十一月二十七日(日)

於：ホテルクレメント徳島　参加者28名(三句出句)

代表選者5名が特選句1句を含む10句、他の参加者が3句を選び集計した合計での高得点者に選者毫の墨痕鮮やかな色紙を賞品として手交。

今年最後の句座、コロナ禍に負けるなと罹患防止対策を遵守しながら閑かに熱く絆を深めました。

【合計での高得点者】

9点　松家京子

8点　青木慧・髙木閑人・奈賀和子

7点　井形順子・上窪青樹

【選者特選句評】

◎　上窪青樹特選評

水面いま音なき波紋散紅葉　　松家　京子

年齢によって作る俳句が変わり、鑑賞も違ってくる。藤田湘子先生に師事したことがあるが、若いときの選と歳を重ねてからの選は明らかに違っていた。

若い時には面白みのある句を採っていたが、次第に奥行きのある写生句を採ることが多くなっていった。人生の年輪が為せることだが、これは私たちも同じだろう。句歴が長くなればなるほどそんな経験をするはずである。

掲句も私が若い頃なら読み過ごして特選に推すことはなかっただろう。散った紅葉が水面に音を発することはないだろうし、それによって波紋が生まれることも当たり前のこと。しかし、考えてみると人間も人類という大木の一枚の木の葉のようなもの、次々と散って人類の未来を支える。やがてはその大木も終わりを向かえるときが来るのだろうが、掲句を見ると紅葉が自分の行く末のようにさえ感じられる。紅葉の波紋だからわずかなもので、すぐ元の水面に還るだろうが、その僅かな波紋が嬉しい。

深読みというより、独断的鑑賞だが、そんな感慨を味合わせてくれた句である。

◎　今岡直孝特選評

義士の日や声には出さぬ吉良贔屓　　山之口一

嫌われ者、厭われる人は、その性向、生活環境、地位等によって人の世に必ず存在する。だが、その人自身の考え方、心情を理解せず誤解、曲解、言われのない評価をし、レッテルを貼ってしまうことが多々あるに違いない。人の善悪、人に対しての好悪などは、所詮第三者の主観なのである。

歴史上の人物も同じで、旧来から続く固定概念による悪人との決めつけを被っている人も少なくない。だが、歌舞伎や演劇で極悪人として演じられてきた田沼意次、原田甲斐、井伊直弼などは、山本周五郎、舟橋聖一によって善い光の当てられ方をされている。なのに、吉良上野介は未だに年末になると悪役。当人の地元、系譜の方、吉良贔屓は、声にだせぬか、小声になるのである。そんな少数の方達の思いを代弁しての句に共感、微笑した。

註

「善事をおこないつつ、知らぬうちに悪事をやってのける。悪事をはたらきつつ、知らず識らず善事をたのしむ。これが人間だわさ」

註・池波正太郎「谷中・いろは茶屋」より

◎　二橋満璃特選評

無人駅出て大根の首並ぶ　　中川　秀司

今年で鉄道開業百五十年。車社会の到来、人口減等により乗降客が減り、無人駅が増えていく昨今である。作者が無人駅を出てみると、そこに大根が並んでいた。大根を干すという人の営みは変わらず続いている訳で、その光景が目に飛び込んできた。首が並ぶと表現されたことで大根の存在を際立たせたと思われる。後には青い海が見え海からの風が吹いていたかも知れない。

さびれていく鉄道とと今に変わらぬ人の営み。陰と陽の対比が象徴的に描かれていて印象的な一句でした。

◎　青木慧特選評

冬日向猫は見ている聞いている　　益田　梅子

江戸川乱歩賞「猫は知っていた」という仁木悦子の推理小説を思い出した。女流推理作家の先駆けとなる受賞作であった。愛猫家が増えているようだが、作者も飼っているのであろうか。可愛くて堪らないのだが、何処か見透かされているようで、油断ならない気持ちを表現している。窓際の日向で時々耳を動かして、背後のご主人の様子を窺っている猫の背が目に見えるようである。

◎　安曇統太特選評

芸術は右脳の爆発冬紅葉　　仲　空

かの岡本太郎は「芸術は爆発である」と言った。

掲句は具体的に「芸術は右脳の爆発」と言い切ったことで、より大きなインパクトが生まれた。左脳は理論的思考を右脳は情緒や感情を司ると言われる。そこに着目し「右脳の爆発」と詠い上げた大胆さが奏功した。

季語の冬紅葉は、この時季になると俳人達に多用されるが、そのようなありふれた季語を、下五に動ざるものとして斡旋したのも見事である。

【当日の一句】（○は選者）

地獄絵図抜けて呆けし雪婆　　○上窪　青樹
牡蠣を剥く夫婦そろひの野球帽　　○今岡　直孝
次頁に残る筆圧神の旅　　○二橋　満璃
旅人となる嬉しさよ冬帽子　　○青木　慧
ヒューヒューと北風新宿東口　　○安曇　統太
耳もとへ内緒話や枇杷の花　　明日　侖
顔知らぬ先祖の法事冬初め　　飯田ひとみ

現代俳句協会

冬銀河過去から来たという光　井形順子
チゴイネルのビオロン淋し鶴渡る　梅岡美沙子
帰り花あの日と同じ路地迷ふ　上窪則子
磯明けの凪待つ海士の焚火かな　K・ベック
山装う口紅薄くつけてみる　湘南紗季
古書店の奥にどっかり大火鉢　高木閑人
手套脱ぎ手話の二人は饒舌に　田村素秀
これはもう空爆としか枯蓮　奈賀和子
芸術は右脳の爆発冬紅葉　仲　空
海見ゆるところに阿波の月祀る　中川秀司
寂聴の一生今に返り花　長町淳子
冬耕のをとこ無口で一徹で　中山孝子
寒雷や迷子案内はエコー付き　奈須野惠香
神の留守信長も見た蝕のショー　羽山章鵬
綿虫やかすかに海の色をもて　原田厚子
冬日向猫は見ている聞いている　益田梅子
埋火や腹筋といふ底力　松家京子
冬花火戦火匂ひしてゐたり　松原雅子
吊し柿揉む手もありしピアニスト　向井みちこ
義士の日や声には出さぬ吉良贔屓　山之口ト一
闇汁の黒き世界や匂ひのみ　若葉　淳

◆その他（県内で開催された行事・大会等で現代俳句協会会員の活動及び受賞記録）

★徳島県俳句連盟第五十九回大会

今年の大会もコロナ感染症蔓延防止のため、晴れやかな表彰式を兼ねた大会は開催されず誌上のみの大会となりました。事務局を務める鳴門俳句会に集まった、千五百九十九句の応募作品を十一人の選者が、選者賞一句、特選三句、入選三十句を選び、高点句（同点の場合は受付順）を俳句連盟賞とした中で、現代俳句協会会員の作品を転載いたします。

○選者賞　船越淑子選

火の恋し人も恋しき晩節は　長町淳子

○徳島県俳句連盟賞

漆黒の闇に春月凛と在り　原田厚子
朝刊に切り抜きの窓夏休み　髙木閑人
青嵐人間ときに反抗す　住友セツ子

○栗田やすし選

一管の洩れくる池亭白しょうぶ　原田厚子
振り向きし犬の鼻先春の雪　井形順子

○田島和生選

工房の薬の匂ふ薄暑かな　長町淳子

閉ざされし山の学舎花おぼろ　原田厚子
耳たぶのおほきな家系柏餅　髙木閑人

○神野紗希選

粗澄まし骨の鋭き桜鯛　K・ベック
青水無月ビスクドールの首に罅　山之口ト一
お裾分けそのまたお裾分け蕨　梅岡美沙子
風花す画廊喫茶に銀の匙　長町淳子
夢道に獄夢道に妻や花茨　安曇統太
つまらない思春期蕁菜は逃げる　山田絵里
凌霄花掃き寄せ新聞少年よ　大島宏昭

○岩田公次選

耳たぶのおほきな家系柏餅　髙木閑人

○戎谷利公選

興亡の山城跡や夏あざみ　原田厚子
この星に火種いくつや冴え返る　中平益美
茶筅振る快風生む夏座敷　豊田美枝子
縫ひくれし母の形見の白絣　住友セツ子
嫁ぐ娘と糠床作る良夜かな　向井みちこ

○上窪青樹選

ダリの椅子真中に置いて陽炎ひぬ　山之口ト一
青水無月ビスクドールの首に罅　山之口ト一
砂浜に青き罐蹴る余寒かな　若葉　淳
そよ風が紫陽花の毬つきに来る　長町淳子
雑草を引くや新町商店街　吉岡えい子
木偶つかふ指のしなぎや汗ぬぐふ　住友セツ子
山梔子や猫に砦といふ離宮　上窪則子

○谷中隆子選

炎昼を黒き猫ゆく二月堂　若葉　淳
工房の薬の匂ふ薄暑かな　長町淳子
興亡の山城跡や夏あざみ　原田厚子
風薫る稚にまなざしありにけり　吉岡えい子
店名は「未来コンビニ」山笑う　井形順子

○西池みどり選

工房の薬の匂ふ薄暑かな　長町淳子
一合瓶封切ってある彼岸かな　中平益美

○福島せいぎ選

耳たぶのおほきな家系柏餅　髙木閑人
㊥朝刊に切り抜きの窓夏休み　**髙木閑人**

○船越淑子選

冗談のなかに本心ソーダ水　松家京子

明易し天地静寂月下弦　川上佐恵子
花あふち会話のはづむ風の沙汰　長町淳子
エレガント上皇后のサングラス　青木　慧
山梔子や猫に砦といふ離宮　上窪則子
生物に無限の進化大花火　上窪則子
㊥漆黒の闇に春月凜と在り　原田厚子
㊥青嵐人間ときに反抗す　住友セツ子

○山田譲太郎選

そよ風が紫陽花の毬つきに来る　長町淳子

★ 夢道忌俳句大会

橋本夢道の命日である十月九日を夢道忌として顕彰するための俳句大会も今年で十九回目、忌日前後の土日に開催していますが、一日も早く季語として全国的に「夢道忌」が認知されてほしいものです。

令和四年十月八日(土)
於　藍住町総合文化ホール1階　参加者57名
当季雑詠三句(内一句は夢道忌を詠み込む)

【最優秀賞】
裸婦像に誰もが触れる野外展　山之口ト一

【優秀賞】
古民家の固き三和土や秋澄めり　上窪則子

【選者特選賞】
夢道忌や令和の貧の見えにくき　益田梅子

★ 第二十回とくしま文学賞(俳句部門

【優秀賞】
黒猫は春満月の使者である　山之口ト一
大いなる縄文の風蓮は実に　長町淳子

【佳作】
松家京子・山之口ト一・原田厚子(二句)・吉岡えい子・長町淳子・青木慧・幸田清子

◆ 現代俳句列島春秋(2022年)掲載句

1月　大絵馬に絵具のにじむ淑気かな　西木之子
2月　雪景色溶けてうつつの阿波の国　益田梅子
3月　春泥を着けて戻りぬ父の杖　幸田清子
4月　ふらここに一瞬といふ無重力　山之口ト一
5月　雨を織る黒き杼となる夏燕　上窪青樹
6月　蛍火やかつて晒屋ありし辺に　玉田玄子
7月　団扇にて寝かしつけたる昔あり　吉岡えい子
8月　風鈴の舌に句のある無人駅　森口恭子
9月　星月夜地を清めたる微生物　いとう奏杜

10月　悔いといふ小さな火種シクラメン　長谷川公子
11月　ダンベルの二キロに喘ぐ憂国忌　髙木閑人
12月　柚子の香や午前零時の終ひ風呂　石井政子

◆二〇二三年度　行事予定

3月26日(日)　総会・吟行句会（鳴門市大鳥居苑）
4月30日(日)　例会（文学書道館）十三時～
7月30日(日)　例会（文学書道館）十三時～
10月29日(日)　吟行句会（未定）
11月26日(日)　忘年句会・懇親会（ホテルクレメント）

＊都合により会の中止、会場の変更をすることがあります。事務局へお問い合わせください。

＊その他として、

・徳島県俳句連盟大会（六月末投句締切）
・とくしま文学賞（九月末募集締切）
・夢道忌俳句大会（十月九日・藍住町総合文化センター）

等が予定されています。

夢道忌俳句大会風景

徳島県現代俳句協会規約

（名称）
第一条　この会は、徳島県現代俳句協会という。
（目的）
第二条　この会の目的は、徳島県現代俳句協会会員が相互研究の場をもち、親睦融和を図ることを目的とする。
（事業）
第三条　前条の目的達成のため、次の事業を行う。
1　俳句大会
2　研究句会
3　その他、目的達成のため必要な事業
（役員）
第四条　この会に次の役員を置く。
1　顧　　問　若干名
2　会　　長　一名
3　副 会 長　二名
4　幹　　事　若干名
5　監　　事　一名
6　事務局長　一名、事務局　若干名
4　会　　計　一名

第五条　役員の任務は次の通り定める。
1　会長は、会務を総括し、この会を代表する。
2　副会長は、会長を補佐し会長に事故あるときは、あらかじめ会長が指名した副会長がこれを代行する。
3　幹事は、会長の諮問に答える。
4　監事は、会計の監査に当たる。
（役員の選任及び任期）
第六条　役員の選任は、総会において行い、任期は二年とし、再選は妨げない。なお、事務局長及び会計は、会長が任命する。
（顧問）
第七条　この会に、顧問若干名を置くことができる。顧問は、会務について会長に意見を述べることができる。
（会議）
第八条　総会は、年一回とし、必要に応じ臨時総会を会長が招集する。
（経費）
第九条　この会の経費は、本部からの交付金でまかなうが、必要に応じ会費を徴収する。
（付則）
この会則は平成十年四月一日から施行する。

徳島県現代俳句協会役員

顧　門　船越　淑子
会　長　上窪　青樹
副会長　今岡　直孝
　　二橋　満璃
幹　事　大島　宏昭
　　青木　慧
　　安曇　統太
監　事　住友セツ子
会　計　山之口卜一
事務局長　上窪　則子
事務局　明日　侖

◆編集後記

○　会員数減少、高齢化と、総会を始めとした行事や例会への参加者は会員の約三分の一が現状です。会に出席したくても諸般の事情により出向くのがままならないという現実を直視し、対応を検討する時期がきているのかもしれません。欠席投句のご意見も頂きましたが、欠席投句は出席者に負担がかかったるなど現在の段階では難しいと考えます。郵便やFAXを使った句会もお世話役がいるでしょうし、ネット句会は参加者の環境整備が必要でしょう。何かよいご意見を頂けるとうれしいです。

○　今回から会報の印刷方法を変えたため、写真を多く掲載できるようになりました。事務局が代わって初めての会報作成のため、少し戸惑いがありましたが、無事に仕上がりほっとしております。来年はもってスムーズに出来るのではないかと思っています。　（編集子）

事務局連絡先
〒771－1273　板野郡藍住町勝瑞字正喜地93－10
上窪　則子　TEL　〇八〇－五六六五－五二四七

令和５年　徳島県現代俳句協会名簿　2023年1月1日

	氏　名	所属結社		氏　名	所属結社		氏　名	所属結社
1	青木　慧	青海波	31	K・ベック	風嶺	61	藤井 敏子	青海波
2	青木 秀明	風嶺	32	幸田 清子	青海波	62	二橋 満璃	青海波
3	安芸 紀子	青海波	33	小山 やす子	海原	63	船越 淑子	青海波
4	明　日　侖	風嶺	34	佐野　敦子	青海波	64	ふなとがわ たく	無所属
5	安曇 統太	風嶺	35	島田 正子	麦・藍の風	65	本城 佐和	青海波
6	阿部　久	青海波	36	湘南　紗季	風嶺	66	益田 梅子	風嶺
7	飯田ひとみ	風嶺	37	住友セツ子	青海波	67	町田　美香	風嶺
8	井形 順子	風嶺	38	曽根　燦	風嶺	68	松家 京子	青海波
9	伊賀 信子	風嶺	39	髙木 閑人	風嶺	69	松原 雅子	犀・青垣
10	石井 政子	青海波	40	谷本　栄子	青海波	70	丸山 美早	無所属
11	市原 光子	海程	41	玉田　玄子	青海波	71	向井みちこ	風嶺
12	いとう奏杜	風嶺	42	田村 素秀	青海波	72	村島 まさこ	青海波
13	位頭美智子	青海波	43	豊田 美枝子	青海波	73	森口 恭子	青海波
14	今岡 直孝	鹿・天鞭通信	44	奈賀 和子	青海波	74	山田 絵里	風嶺
15	魚井 遊羽	青海波	45	仲　空	風嶺	75	やまだ 胡瓜	風嶺
16	宇川 清英	青海波	46	中川　秀司	樫	76	山之口一	風嶺
17	うっかり	ひまわり・奎	47	中野 貴美	青海波	77	油津 雨休	無所属
18	馬留　寛	風嶺	48	中平 益美	青海波	78	吉岡えい子	風嶺
19	梅岡 美沙子	風嶺	49	長町 淳子	青海波	79	若葉　淳	風嶺
20	大島 宏昭	無所属	50	奈須野 恵香	風嶺			
21	大塚 紀久子	青海波	51	西　之子	青海波			
22	大塚 通子	青海波	52	西池 冬扇	ひまわり			
23	小田　隆子	青海波	53	西池みどり	ひまわり			
24	尾原　葛	麦	54	西木 恵子	犀・航標			
25	金森 久美子	青海波	55	西村 富子	青海波			
26	鎌田　陽子	風嶺	56	長谷川公子	青海波			
27	上窪　青樹	風嶺	57	林　戒	無所属			
28	上窪　則子	風嶺	58	羽山 章鵬	GINの会・風嶺			
29	川上左恵子	青海波	59	原田　厚子	青海波			
30	倭　瑠	風嶺	60	板東ユキ子	青海波			

徳島県現代俳句協会